



この本の使い方	004
はじめに	006

## 第一章 意外と知らない? ゴキブリの秘密に迫る! 007

ゴキブリとは	008	ゴキブリの四季	015
世界と日本のゴキブリ	009	ゴキブリの食べ物	016
ゴキブリの体	010	ゴキブリの産卵様式	017
ゴキブリはどこにいる?	012	ゴキブリの卵鞘	018
ゴキブリの生活史	014		

## 第二章 台所にいる種だけじゃない! 日本のゴキブリを紹介! 019

クロゴキブリ	020	キスジゴキブリ	047
ワモンゴキブリ	021	オオモリゴキブリ	048
コワモンゴキブリ	022	リュウキュウモリゴキブリ	049
ウルシゴキブリ	024	チャバネゴキブリ	050
<b>コラム</b> うっかり「ゴキブリ」誕生?	025	<b>コラム</b> 家でゴキブリを見ないようにするには?	051
ヤマトゴキブリ	026	モリチャバネゴキブリ	052
アカズミゴキブリ	028	ヒメチャバネゴキブリ	053
トルキスタンゴキブリ	029	ヒメマルゴキブリ	054
イエゴキブリ	030	マルゴキブリ	056
マルバネゴキブリ	031	<b>コラム</b> イリオモテヤマネコとゴキブリ	057
クロモンチビゴキブリ	032	オガサワラゴキブリ	058
<b>コラム</b> 幸運を呼ぶ? 白いゴキブリ	033	チャイロゴキブリ	059
ヒメクロゴキブリ	034	オオゴキブリ	060
チャオビゴキブリ	035	エサキクチキゴキブリ	061
ウスヒラタゴキブリ	036	タイワンクチキゴキブリ	062
アミメヒラタゴキブリ	037	ハイロゴキブリ	063
<b>特集</b> アース製薬株式会社取材記①	038	サツマゴキブリ	064
<b>特集</b> 世界の「ごきぶりホイホイ」図鑑	040	ヤエヤマダラゴキブリ	065
ツチゴキブリ	042	コマダラゴキブリ	066
チビゴキブリ	043	アルゼンチンモリゴキブリ	068
フタテンコバネゴキブリ	044	ルリゴキブリ	069
キョウトゴキブリ	045	アカボシルリゴキブリ	070
ミヤコモリゴキブリ	046	ウスオビルリゴキブリ	070

ベニエリルリゴキブリ	071	<b>特集</b> アース製薬株式会社取材記②	078
ホラアナゴキブリ	072	<b>特別企画</b> ゴキブリQ&A	080
<b>特集</b> まるでエイリアン? エメラルドセナガアナバチ	074	<b>コラム</b> 害虫としてのゴキブリ	082
<b>特集</b> ゴキブリの脱皮殻コレクション	076		

## 第三章 魅力的なゴキブリたちはまだまだいる! 世界のゴキブリを紹介! 083

アシナガゴキブリ	084	ボルネオマダラゴキブリ	096
マレーゴキブリ	085	コノハゴキブリ	097
ゼブラゴキブリ	085	ニジイロゴキブリ	098
キボシクサリトイゴキブリ	086	ヒカリモンゴキブリ	099
シブイロヨロイヒラタゴキブリ	087	ヨロイモグラゴキブリ	100
キンイロゴウシュウゴキブリ	087	<b>特集</b> 野生のヨロイモグラゴキブリに会ってきた!	102
アカガネゴウシュウゴキブリ	088	オオマダガスカルゴキブリ	104
テントウゴキブリの一種	089	ヨコジママダガスカルゴキブリ	104
ムツボシテンドアマゴキブリ	090	シマシママダガスカルゴキブリ	105
オオメシロヘリゴキブリ	090	ヒラタマダガスカルゴキブリ	105
ユーカリゴキブリの一種	091	<b>コラム</b> ゴキブリが食べ物になる?	106
キスジワモンゴキブリ	092	オオメンガタゴキブリ	107
クロアシクビワゴキブリ	092	エジプトサバクゴキブリ	108
ホタルゴキブリ	093	ドミノゴキブリ	108
ミドリバナナゴキブリ	094	ハテナゴキブリ	109
オーロラゴキブリ	095	<b>コラム</b> 世界最大のゴキブリ	109
ニコニコゴキブリ	095	コウモリモンゴキブリ	110
ヨツボシゴキブリ	096		

## 第四章 ゴキブリが気になってきたあなたに贈る ゴキブリ探求実践編! 111

ゴキブリの観察と採集	112	ゴキブリアレルギー	121
ゴキブリの写真を撮ろう!	114	ゴキブリ標本のすゝめ	
ゴキブリの飼育	116	液浸標本の作り方	122
最初に飼うなら? おすすめゴキブリ	120	乾燥標本の作り方	124

さくいん	126
参考文献	127



# この本の使い方

本書では日本産42種、海外産32種のゴキブリを掲載しています。第一章では有名だけどもり知られていないゴキブリの基本をご紹介します。第二章では日本のゴキブリを、第三章では世界のゴキブリを紹介しています。さらに、第四章ではよりゴキブリの魅力を探求できるよう、標本の作り方や飼育方法の解説を行いました。

## 名前

ゴキブリの種の名前です。海外産の一部の種は日本で呼び名が無かったため、仮称をつけて紹介しました(この場合、名前の横に「\*」をつけています)。

## データ

学名や大きさ、分類など、種のデータを記しています。大きさについては、日本産の種は1mm単位で示し、海外産の種は情報や確認個体数が少ない種もあるため、文献に示された数値や飼育個体、標本を計測した数値を含む5mm単位で示しました。参考程度に考えていただけたらと思います。

## 解説

ゴキブリの特徴や見つけられる場所などを示しました。

### 特徴

日本ではなかなか出会うことがないゴキブリです。特徴的な外見をしているので、日本産で見間違えるような種はいません。屋内やその周辺で見つかり、広い範囲で記録がありますが、生息している場所は限られています。出会えたらラッキーなゴキブリと言えるでしょう。一年を通して暖かい環境を好み、ワモンゴキブリと二種に似ていることもあるようです。



小さい幼虫の頭は顔はぼんやりしています

### 「家にいる」からこそ探しにくい!

生息地が限られている、個体数が少ない、特殊な環境に生息しているなど、見つけることが難しいゴキブリはたくさんあります。実は家の中に出没する屋内害虫のゴキブリも見つけることが難しいゴキブリです。自分の家や知り合いの家で発生していれば、そこで探せばいいのですが、そうでない場合は協力をしてくれる人を探るところから始めてはいけません。勝手に人の家に入ることはできません。民家周辺でコンコンと不審な動きをしている住民の方を不安にさせてしまいます。意外にも、屋内に出没するゴキブリを探ることは難しいのです。

イエゴキブリは民家やその周辺で見つかる上に個体数も少ないからなかなか見つからない!



## 特集

ゴキブリについての豆知識や、人間との関係、他の生きものとの関係などについて解説しています。

### まるでエイリアン? エメラルドセナガアナバチ



1. 甲. 2019年10月、千葉県市川市で発見された。2020年11月、千葉県市川市で発見された。2021年11月、千葉県市川市で発見された。2022年11月、千葉県市川市で発見された。



## イエゴキブリ

学名: *Neostylocyba rimbabai*  
分類: ゴキブリ科イエゴキブリ属  
体長: 20~25mm  
分布: 北海道・本州(千葉県、東京都、神奈川県、小笠原諸島(徳島島、カヲ列島、小笠原列島(小笠原列島))、奄美群島(奄美大島、赤松島)、沖縄諸島、宮古列島(宮古島、石垣島)、八重山列島、全世界の島嶼・亜陸帯  
繁殖様式: 卵生

木に止まるメス成虫(前背側)。縦縞の模様を持っている。



## マルバネゴキブリ

学名: *Attaurum chrysogasterum*  
分類: ゴキブリ科マルバネゴキブリ属  
体長: 10~15mm  
分布: 宮古列島、奄美群島、八重山列島(石垣島、宮古島、石垣島、宮古島)  
繁殖様式: 卵生

夜間に薪の地面で見つけたメス成虫(宮古島)。

### 特徴

短くて丸みのある翅を持っているゴキブリです。飛ぶことはできません。全体的に黒色ではなく、体は艶のある黒色をしていて、肢は赤褐色です。メスに比べてオスは小さく、細身です。森林内の地表に生息しています。動きはとてま早く、危険を感じると地面にある隙間に身を潜めます。どこにでもいるゴキブリではありませんが、場所によってはたくさん個体が観察できます。



マルバネゴキブリの産卵巣(宮古島)

### ゴキブリにもいろんな呼び名が?



「かねもちむし」「げんごらふ」「げじげじ」など他にも呼び方があつたみたい。調べてみると面白いかも?

ゴキブリには様々な方言名があります。鹿児島県の悪石島で出会ったおばあちゃんは、ゴキブリのことを「あまめ」と呼んでおり、沖縄県石垣島で出会ったタクシーの運転手さんは「ゴキブリのことは、ピーラーやピーラーと呼ぶよ」と教えてくれました。また、イベントと一緒にあった東京都八王子市出身の女性たちがゴキブリのことを「あぶらむし」と呼んでいました。呼び名が違うと、印象もちよと変わりますね。

## 分布

日本産の種は柳澤(2022)の「日本において記録のある場所を北海道、本州、小笠原諸島、四国、九州、大隅諸島、トカラ列島、奄美群島、沖縄諸島、宮古列島、八重山列島の11項目について示した。本州については確認されている場所が4県以内の場合、小笠原諸島、四国、九州、大隅諸島、トカラ列島、奄美群島、沖縄諸島、宮古列島、八重山列島は確認されている県、島嶼がそれぞれで2か所以内の場合、県名・島名も併記した」に従いました。海外産の種は確認されている国を表示し、5か国以上、または論文情報はないものの、周辺国で確認されている場合は「など」を付しています。また、広い分布域を持っている場合はその地域名を記載しました。○ゴキブリの一種として紹介した種に関しては、撮影地の国名を記しています。

## コラム

ゴキブリについての楽しめる様々な情報を紹介しています。掲載しているページのゴキブリに関する記事ではない記事もあります。



# クロゴキブリ

学名: *Periplaneta fuliginosa*  
 分類: ゴキブリ科ゴキブリ属  
 体長: 25~33mm  
 分布: 北海道、本州、小笠原諸島 (詳細地点不明)、四国、九州、大隅諸島、奄美群島 (奄美大島)、沖縄諸島 (沖縄本島)、ユーラシア大陸、台湾、ブラジル、アメリカなど  
 産卵様式: 卵生

森林内の林床で見つけたメス成虫。近くにあった木の隙間からでてきたようです (静岡県)。



# ワモンゴキブリ

学名: *Periplaneta americana*  
 分類: ゴキブリ科ゴキブリ属  
 体長: 30~40mm  
 分布: 北海道、本州、小笠原諸島、四国 (高知県)、九州、大隅諸島、トカラ列島、奄美群島、沖縄諸島、宮古列島、八重山列島、全世界の熱帯・亜熱帯  
 産卵様式: 卵生

夜間にコンクリートの道路を歩いていたメス成虫。この後、素早く逃げていきました (伊良部島)。

## 特徴

日本で一番有名なゴキブリです。キッチンにいるイメージが強いですが、森や林などの野外でもたくさん暮らしています。  
 昼は樹の隙間や落ち葉の下に隠れていて、夜になると動き出す夜行性です。カブトムシやクワガタムシと一緒に樹液に集まってくることもあります。「黒」という名前ですが、近づいてしっかり観察すると、実は透き通った濃い赤茶色をしているのがわかります。全体に模様はなく、強い光沢を持ちます。  
 動きは素早く、逃げの達人。飛翔することもあります。チャバネゴキブリと名前を間違えられてしまうことが多いですが、見た目も大きさも違うので、見分けることは簡単です。



クロゴキブリの幼虫。赤っぽい見た目をしています。花びらを食べている途中で、触角に花粉がついています (静岡県)

## 特徴

温かい地域に多いゴキブリです。前胸に輪っか状の模様を持つため、ワモン(輪紋)ゴキブリという和名になりました。クロゴキブリよりも大型のため、クロゴキブリを見慣れている方が沖縄などで本種を見ると大きく感じるでしょう。「沖縄のゴキブリは大きい」とよく言われますが、これは種が違うためです。本州などでも年中温度が高い場所では通年発生しています。日本に元々いたゴキブリではなく、海外から移入してきたゴキブリです。入手もしやすく飼育や繁殖が簡単なため、実験動物として活躍しています。



石垣の中にあるワモンゴキブリの幼虫 (鹿児島)



品種改良で作り出された黒いワモンゴキブリ (ブラックワモンゴキブリ) のオス成虫 (飼育下)

## ワールドワイドなゴキブリ

ワモンゴキブリは暖かい地域を中心に世界の様々な場所に生息しています。こうした広範囲に生息している種を汎存種(コスモポリタン)といいます。



## ヨツボシゴキブリ

学名: *Paranauphoeta formosana*  
 分類: オオゴキブリ科 *Paranauphoeta* 属  
 体長: 20~30mm  
 分布: 台湾  
 産卵様式: 卵胎生

### 特徴

森林内に生息しており、樹皮の下や枯れ木の中などから見つかります。成虫はオスメスともに翅を持っています。サシガメのような見た目をしていることから、「サシガメゴキブリ」という名で呼ばれることもあり、ペットとして飼育する方もいます。台湾は日本最西端の島である与那国島から目と鼻の先ではありますが、本種や本種の所属している *Paranauphoeta* 属は日本で見つかっていません。

メス成虫 (飼育個体)。

## ボルネオマダラゴキブリ

学名: *Morphna maculata*  
 分類: オオゴキブリ科 *Morphna* 属  
 体長: 35~50mm  
 分布: マレーシア、インドネシア  
 産卵様式: 卵胎生

### 特徴

幅の広い小判状の大型ゴキブリです。幼虫は森林内の地面近くに多く、成虫は木の隙間や立ったままの枯れた木の中などから見つかります。夜になると、隠れていた場所から出てきて活動します。日本のヤエヤママダラゴキブリと似たような生息状態をしているのではないかと考えられます。



夜間に木の幹で活動していたメス成虫 (マレー半島)。

## コノハゴキブリ



学名: *Pseudophoraspis nebulosa*  
 分類: オオゴキブリ科 *Pseudophoraspis* 属  
 体長: 25~40mm  
 分布: マレーシア、インドネシアなど  
 産卵様式: 卵胎生

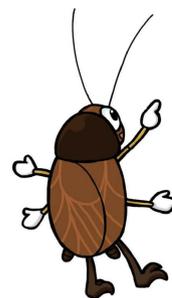
夜間に葉の上でいたメス成虫 (シンガポール)。

### 特徴

成虫はオスメスともに光沢のある長い翅を持ちます。名前の通り、枯れ葉にそっくりです。森の中には落ち葉や木からぶら下がった枯れ葉が多くあるので、これだけ似ているときっと捕食者から見つけられにくいでしょう。湿潤な森林内に生息していて、幼虫は主に森の地面で生活しています。



幼虫 (シンガポール)



枯れ葉にそっくりなゴキブリはコノハゴキブリ以外にもたくさんいるよ！  
 枯れ葉コーデはゴキブリ界のトレンド！



コノハゴキブリの生息環境 (シンガポール)